

ISSN 0918-1385

THE ROOF

郡山市立美術館ニュース ザ・ルーフ

2013.5.31 Vol.42



滝平二郎(『八郎』カバー)1968(昭和43)年 木版、きりえ、油彩、グアッシュ・紙 33.0×48.6cm
©JIRO TAKIDAIRA(Office Takidaira 2013)

小磯良平と竹中郁

《彼の休息》をめぐる友情

佐藤 秀彦（当館学芸課長）



《彼の休息》修復後

やりたいのに、六畳の日本間で家人がびっくりする裸のモデルを描く勇氣もなく、何をやるうかと考えていた時だった。よく遊びに来ていた竹中郁君に座ってもらうことにして、どうにか間に合わせたことがある。」と小磯が回想しています。（注）ラグビー部だった竹中は、ラグビージャージ姿でソファに腰をおろしています。神戸の居留地の外国人たちによって伝えられたラグビーは、早くから神戸に根付いていたスポーツだったのでしょつ。そばに置かれたパラソルや、赤いランタンなど、神戸のモダンな雰囲気にも充ち溢れた作品です。

この作品は、小磯良平（1903-1988）の東京美術学校（現・東京藝術大学）の卒業制作として制作されました。モデルは、小磯の生涯の友人であり、のちに詩人となる竹中郁（本名育三郎 1904-1982）です。このころ小磯は、東京美術学校の卒業をひかえて、東京から戻り郷里の神戸で生活をしていました。第七回帝展に出品されて特選を受賞し、小磯の出世作となった《T讓の像》（兵庫県立美術館蔵）もこの時期に制作されています。

竹中郁は中学校から親しくしていた友人で、もともと竹中も画家志望でしたが、父の反対に画家の道を断念し、関西学院文学部英文科へ入学していました。小磯の卒業制作がなかなかうまく進まないのを見かねて、竹中がモデルを引き受けたいといっています。

この作品は、昨年度東京藝術大学で修復がほどこされ、表面の黄ばんでいたワニスなどが取り除かれています。急いで描いたと言われているように、乾燥に十分な時間をかけられなかったせいで、顔やユニホームの部分に大きな亀裂がはじっていました。今回の修復では、亀裂の部分を目立たなくして鑑賞しやすいようにするために、補彩がほどこされましたが、亀裂の部分にもまず先に新しいワニスを塗り、その上から補彩を施して、将来ワニスを溶かさずに補彩を除去することができるよう配慮されて修復されました。



《彼の休息》修復前部分

グレーの美しさにも目をうばわれます。東京美術学校を卒業した小磯良平は、竹中とともにパリに2年間遊学します。小磯は美術学校へ通うかたわら美術館などで西洋美術を研究し、竹中もまた、ジャン・コクトーやマン・レイなどの芸術家と交流しています。神戸が生んだ二人の若い才能は、帰国後、画家と詩人として、それぞれの道で大きく開花していきます。そして二人の交流は、生涯変わることなく続いていったのです。

注 「私のモデル・竹中郁君」朝日新聞 1953（昭和28）年3月21日

小磯良平《彼の休息》1927（昭和2）年
油彩・キャンバス 146.3×112.0cm 東京藝術大学所蔵
（郡山市立美術館で、5月21日から6月16日まで「生誕110年 小磯良平の世界」展で展示されます。）

《彼の休息》の修復は、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復油画研究室によって平成24年度に行われた。修復記録は、同研究室の木島隆康教授よりご協力をいただいた。記して感謝いたします。

生誕110年 小磯良平の世界
—人生への賛歌—

平成25年4月20日(土)～6月16日(日)

会場 郡山市立美術館
時間 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日休館(祝日の場合は翌日休館)
観覧料 一般 800(640)円
高・大生 500(400)円
※中学生以下・65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催 郡山市立美術館 福島民友新聞社
福島中央テレビ 読売新聞社
美術館連絡協議会

特別協力 兵庫県立美術館
協賛 ライオン 清水建設 大日本印刷
損保ジャパン
協力 日本通運

講演会 「日本洋画史の中の小磯良平」
講師 島田康寛氏(神戸市立小磯記念美術館長)
日時 6月2日(日) 午後2時～
場所 多目的スタジオ(入場無料)

滝平二郎展

会期 6月29日(土)～8月25日(日)
 休館日 毎週月曜日(7月15日(月)は開館、翌日休館)
 開館時間 午前9時30分～午後5時(最終入館は午後4時30分)
 観覧料 一般500(400)円 高校・大学生300(240)円
 ※()内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。
 主催 郡山市立美術館
 特別協力 滝平二郎事務所
 協力 岩崎書店 福音館書店
 企画・運営協力 キュレイターズ



『モチモチの木(カバー)』1971(昭和46)年
 きりえ、墨、水彩・紙 28.5×48.5cm

挿絵の作者・滝平二郎(1921～2009)は茨城県に生まれ、版画家として活動を始めました。本の装丁や挿絵も多く手がける一方、1970年から8年余り朝日新聞に連載されたきりえ作品が人気を博しました。日本の四季の風景を描いたきりえ作家としてご存じの方も多いことでしょう。

児童文学者・斎藤隆介(1917～1985)と組んだ絵本が評判となり、『八郎』(1967年)、『花さき山』(1969年)、『三三』(1969年)などに続いて出版されたのが『モチモチの木』でした。今回はこれらの絵本原画の魅力を十分ご覧いただきたいと、ご遺族のご協力を得



『鎌-その2』1964(昭和39)年
 木版、油彩、銀箔・紙 30.7×42.4cm

『モチモチの木』は1971年の発行以来130万部というロングセラー絵本で、小学校の国語の教科書で読んだという方もいらっしゃるかもしれません。祖父とふたりで暮らす少し臆病な少年・豆太が、夜になって腹痛を起こした祖父のために夜道を走って医者を呼びに行くというストーリー、豆太の不安や恐怖、安堵などの心理を象徴する大きな木の存在が印象的な絵本です。

滝平二郎展



『金魚』1977(昭和52)年
 きりえ、墨、水彩・紙
 32.5×20.0cm

て準備を進めています。新たにアトリエで発見された『花さき山』の試作や『モチモチの木』の原画のうち改訂の際に差し替えられた初版のための原画1点なども出品される予定です。『モチモチの木』の原画が全点展示されるのは初めてということ、見応えある展覧会になりそうです。

滝平の代表作ともいえる『モチモチの木』ですが、子どもたちの感想を聞くと『怖い』という声も。それは豆太の直面した恐怖や不安に感情移入した証ともいえるでしょうが、滝平の人物像の描写にも一因があるかもしれません。黒い紙をカッターで切り抜くという方法で描かれる滝平の人物像は、独特の太い輪郭線をつなげた目が特徴でもあります。この鋭いまなざしの表現は子ども心に強い印象を残すことでしょう。「事柄の本質などを」かなり正確に、しかも容赦なく感受する能力がある「子どもを「なめてはいけない」と語った滝平のことばには、子どもたちにも真摯に向き合って制作した作家の姿が伺われます。

今回の「滝平二郎展」には絵本の原画のほか、作家・滝平二郎の出発点となった木版画作品、また貴重なデッサンや下絵など180点ほどが出品されます。印刷物では伝わらない紙の切り口や質感など、原画の迫力をお楽しみください。今年の夏の展示室には、なつかしいふるさとの風景が広がります。(中山恵理)

関連行事

- 対談「滝平二郎の原風景」
日時 7月15日(月・祝)
午後2時
会場 多目的スタジオ(入場無料)
講師 滝平加根さん
(滝平二郎長男)
村田哲朗さん
(町田市立国際版画
美術館館長)
- 朗読会
日時 7月13日(土)、8月17日(土)
午前11時、午後2時
会場 多目的スタジオ(入場無料)
出演 児玉理恵さん
(TUFアナウンサー)
- 寄席「正楽紙切りの世界」
日時 8月11日(日) 午後2時
会場 多目的スタジオ(入場無料)
出演 林家正雀(紙切り)
林家正雀(落語)
長澤あや(お囃子)
- 映画会「キリクと魔女」
日時 7月28日(日) 午後2時
会場 多目的スタジオ(入場無料)
- 映画会「ひめゆり」
日時 8月18日(日) 午後2時
会場 多目的スタジオ(入場無料)
※以上、開場は開始30分前
- ギャラリートーク
日時 7月6日(土)、8月10日(土)
午後2時
会場 企画展示室(要観覧券)
- 美術館 企画展示室(要観覧券)
講師 当館学芸員
- 美術講座「滝平二郎の仕事」
日時 8月24日(土) 午後2時
会場 講義室(無料)
講師 当館学芸員



『モチモチの木』より『豆太』(部分)
 1971(昭和46)年
 きりえ、墨、水彩・紙

愛知県美術館所蔵品展

平成25年8月31日(土)～10月20日(日)

休館日 毎週月曜日(9月16日、23日、10月14日は開館、各翌日休館)

開館時間 午前9時30分～午後5時(最終入館は午後4時30分)

観覧料 一般800(640)円、高校・大学生500(400)円

※()内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

主催 郡山市立美術館 愛知県美術館

平成23年3月11日、あの震災の直後から、被災地へは国内外からの救援の手が差し伸べられ、物質的な復旧は少しずつ進み始めました。しかし、被災地住民の心の中には今でも深い傷が残されています。とくに福島県は地震被害のほか、福島第一原発の事故による放射能汚染によっていまだ自宅へ帰還できない人々があり、震災が収束したとは決していえない状況にあります。

その震災から2年が経過した今年、愛知県美術館所蔵品による展覧会を開催することになりました。「震災復興支援」をうたうこの展覧会は、すぐれた美術作品の持つ力によって被災した人々の心を癒し、未来へ進んでほしいという愛知県からのメッセージが込められています。

愛知県美術館は、1955(昭和30)年開館の愛知県文化会館美術館を前身とし、1992(平成4)年10月、名古屋市の中心・栄地区に新設された国内有数のオペラ劇場を備えた複合文化施設「愛知芸術文化センター」内にリニューアルオープンしました。国内有数のコレクションを誇る美術館ですが、中でも、クリムトの《人生は戦いなり(黄金の騎士)》は世界的な名作であり、大規模なクリムトの個展以外には貸出されない逸品です。

今回はその優れたコレクションから2つのテーマに基づいて約70点出品されます。

(1) 日本人と自然

日本人ははるか昔から自然を畏れ、慈しみ、敬いながら共生してきました。しかし、近代になってその精神を忘れ、自然の力を侮った行為が行われ、その結果、たびたび強烈な自然界の報復を受けてきました。その繰り返された自然災害の歴史すら軽んじた結果が今回の震災といってもいいでしょう。

このコーナーでは、江戸時代以来の日本絵画に込められた、日本人の伝統的な自然への畏敬の念を再確認していただければ、と思います。

(2) 無常と祈り

今回の震災によって失われた多くの生命への鎮魂、そして真の復興への祈りを託すとともに、現実や自分自身を見つめ直し、さらに未来へのステップとなるような作品を展示します。クリムトの名作《人生は戦いなり(黄金の騎士)》はじめ、江戸時代の文人画や近代の日本画、洋画などが出品されます。



グスタフ・クリムト《人生は戦いなり(黄金の騎士)》
1903年 油彩、テンペラ、金・キャンバス
100.0×100.0cm



(鈴木誠一)

小川芋銭《若葉に蒸さるる木精》
1921(大正10)年 絹本墨画淡彩/軸
72.5×48.7cm

寄贈作品紹介

平成24年度、作品のご寄贈がありました。

佐藤忠雄様、英雄様、文雄様、芳雄様、信雄様から《亀井家伝来資料》

秋本倫子様から亀井至一作《美人》(石版画)、作者不詳《金州ノ占領》(木版画)

佐藤静司様から三木宗策作《達磨》《根付》(以上木彫)、《秋の図》《木菟の図》

《露草》(以上色紙)、柳沼曹雲作

《ヤブコウジ》《張り子の虎》(以上色紙)、佐藤静司

作《ガマ》(木彫、三木宗策の模刻)

《写真》

平澤三之助様から平澤熊一作《台湾台北大稲埕》《発芽》《建築物と月》《林》(以上油彩画)



平成24年度版所蔵品目録とVTR紹介

平成24年度末、開館20周年を機に全収蔵品目録を発行しました。図書コーナーでご覧ください。また、図書コーナーには所蔵品等をご紹介しますVTRもあります。リストは次のおりですので、受付でヘッドホンを借りてお楽しみください(各10～20分程度の収録時間です)。

● 自然とともに 華麗なるイギリス近代美術の流れ

● クリスタルガラスの旋律 佐藤潤四郎の世界

● 日本の水彩画

昨秋、郡山市立美術館にて嬉しい思いを
しました。帰省の支度をしつつ、ふと目に
した同展の案内は、長らく訪問を願って
いた私には千載一遇の好機だったのです。

初日にギャラリートークもあると知り、
両親や避難生活が続く親戚達、親友達との
久々の再会という様々な思いがめぐる京都
からの道行が、少し心躍るものとなりまし
た。

初めて足を踏み入れた同館の開放的な工
ントランスに期待が膨らみ、弾む心と息を
抑えつつ、中山恵理学芸員の解説に耳を傾
けました（写真）。

同館は英国の近代美術や工芸、日本の近
現代の美術や工芸の体系的な収集が高く評
価され、加えて十九世紀の英国の工業デザ
イナー、クリストファー・ドレッサーの収
蔵品などもあり、実は私の密かなお目当て
も同館の貴重な工芸・クラフトやデザイン
にあったのです。

しかし、今回、心を揺るがす出会いがあ
りました。英国の画家が明治期の日本の情
景を描いた《雪の京都、祇園へゆく道》（水
彩、ヴァーレー）や《西洋紳士スケッチの図》
（油彩、ワグマン）、日本の画家が油彩で
描いた《舞阪駅 自渡口望荒井》（亀井竹二
郎）、《風俗図屏風》（五姓田芳柳）、《収穫》（浅
井忠）、《風景（鳥海山）》（高橋由一）、中川
八郎が水彩で描いた《おぼろ月夜》、《秋郊》
などです。

油彩や水彩も現在では一般的ですが、幕
末頃に西洋（主に英国）からもたらされた
技法です。チューブに入った絵具が登場し、
目にしたものを色彩を伴って即座に描くこ
とが可能となり、当時は画期的なものでし
た。

外国人画家にとっては、自国の風物では
なく、長い鎖国を解いた未知の国、日本を
描く貴重な体験であったに違いありません。



開館20周年 ベスト・セレクション
所蔵作品日英近代美術名品選
平成24年9月22日(土)～10月14日(日)

開館20周年 ベスト・セレクション 所蔵作品日英近代美術名品選

—郡山市立美術館の新たな季節に寄せて—

武藤 夕佳里（並河靖之七宝記念館学芸員・南相馬市出身）

《西洋紳士スケッチの図》の紳士はカンバ
スと絵具箱を膝に置きせつせと絵筆を運ん
でいます。傍らに座り込んだ二人がみつめ
る先には紳士の絵筆が描きだす入り江の風
景が広がっています。

彼らが描いた数々の情景からは、幕末そ
して明治へと、時代の端境期に生きた人々
の眼差しが伝わります。絵の中の人物のひ
と一人やひとつ一つの家の中に、人々の
大切な日々の暮らしが、確かにあったこと
を強く実感し、温かな感動が身体の中に溢
れてきました。

何気ない一枚の風景画ですが、目に映る
画面を越えて想いを馳せていると、中山さ
んの柔らかな声に誘われて、いつしか自身
も時間や空間を越えて、気が付くと自分の
周りに絵の中の情景が広がっているような
そんな不思議な思いに包まれていました。

故郷を離れて暮らす年月が長くなり、思
いはあっても何もできずにいる自分かもど
かしいばかりでしたが、同館への訪問は、
そんな自分の心境に静かな変化を与えてく
れました。

やっぱり福島が大好きだ、福島で生れて
よかったと、故郷のこと、人々の想いをもっ
ともっと知りたいと。福島風の土に育まれ
て、現在の自分が在り、生かされているこ
とに、心からの感謝の念がわいてきました。

京都の並河靖之七宝記念館の学芸に携わ
り、当館も今年十周年となります。節目を
越えて、新たな季節を迎えた郡山市立美術
館の着実な歩みに倣い、当館も歳月を重ね
ていきたいと、未来へと希望を大きく膨ら
ませていきます。

震災後、帰省には福島や郡山を経由する
のが常となり、でもその御蔭で、故郷・福
島との新たな出会いが増えたことを喜びと
できるよう、日々励んでいます。

皆様、また、美術館でお会いしましょう。



平成24年度版所蔵品目録（右）とVTR「イギリス19世紀末の画家
バーン=ジョーンズ」



- イギリス版画の魅力 ロバート・ロ
ダー氏を訪ねて
- イギリスの水彩画
- 日本の近代版画「版芸術の開花」
描かれた東海道 知られざる明治の画
家・亀井竹二郎
- 画業60年の軌跡 鎌田正蔵
- 帰去来 日本画家・安藤重春
- 近代デザインの先駆け クリスト
ファー・ドレッサー
- 画家・佐藤昭一〈交響する絵画〉
- 彫刻家・佐藤静司の仕事
- 雪村周継「四季山水図屏風」
- 湯浅讓二氏に聞く Yusasa Jojiによる
湯浅讓二
- 演劇実験室●万有引力特別公演「100万光
年の彼方劇Ⅱ劇的小道具序説」
- 蠅の映写技師 根本豊●ワークシヨップ
の記録
- 三木宗策の木彫
- イギリス19世紀末の画家 バーン
ジョーンズ

カリグラファーの魅力

安野 由希（カリグラファー）

皆さんはカリグラフィーをご存知ですか？

カリグラフィーとは専用のペンを使ってアルファベットを手書きする西洋の書道です。時に華麗に、また時には重厚感あふれる形にと様々なスタイル（書体）を持つ手書き文字の世界。例えば、身近なところで披露宴会場の入り口におかれているウエルカムボード、ワインのラベル、歴史を感じさせるヨーロッパの古い書物などで目にしたことがあるのではないのでしょうか？

現代はパソコン一つで簡単に素敵な文字を手に入れることができる時代です。そんな中において自分の手で美しい文字を紡ぎだすことに魅せられて早15年。いったい何が魅力なのでしょう？



安野由希氏

時にどの国が発祥ですかと尋ねられることがあります。厳密に答えると文字の歴史にまでさかのぼることになります。粘土板に残る楔形文字、石碑に刻まれたものやパピルス（パピルスという植物の茎を用いた紙の語源となった素材）に葎で書かれた文字、更に羊や山羊皮を使って作られた羊皮紙の世界。時代とともに素材が変わり、それに適した形で文字も変化してきました。現代ではある程度スタイルが確立されています。そのため基本的にはスタイルの約束事に従って練習すれば誰でも美しい文字がかけられるようになります。とはいえ、常に定規で測つたように同じものが書けないのが面白味であり手書きの温かみにつながるわけです。年月をかけて自分なりの美しい形を作り上げていく、それが魅力の一つではないのでしょうか？そして何より文字を書くわけなので、何らかのメッセージを言葉にのせていくことにもなります。それは自分のためだけでなく、時にコミュニケーションの一つにもなり、相手を思いながら時間をかけて作り上げる尊くも貴重なものになるのではないのでしょうか？



最後に、身近なものでカリグラフィー体験してみたい方へ。カリグラフィーはペン先が平らな専用のペンを使います。ペン先の角度を一定に保つことにより文字の中に太い線細い線が生まれます。（蛍光マーカーを思い浮かべてみてください）「割り箸」によつては根本が斜めにカットしているものがあり、それがちょうどペン先と似た形となります。割り箸にインクや絵の具をつけてお試しになってみてください。皆さんの楽しみが一つ増える事を願って…。

ワークショップ

はじめてのカリグラフィー

平成24年12月16日（日）

会場 創作スタジオ

講師 安野由希氏（カリグラファー）

報告・平成24年度 <アート・テーク> ART TAKE



昨年度の連続講座<アート・テーク>。身近な「もの」からアートを捉え、アートと私たちとの関わりを参加者とともに探っていきました。今年度も開催しますので、どうぞお気軽にご参加ください（今年度の予定は最終面をご覧ください）。

- 第1回 「ものの情報を読む～「布」と人」 平成24年11月17日(土)
- 第2回 「もの作る国～日本的創作史」 平成24年12月15日(土)
- 第3回 「名作の誕生～美術の歴史、鑑賞の歴史～」 平成25年1月19日(土)
- 第4回 「ものが「動く」」 平成25年2月16日(土)
- 第5回 「美術館の誕生 ～郡山市立美術館への旅～」 平成25年3月16日(土)

講師：佐治ゆかり（当館館長）
会場：講義室

ワークショップ ガラスの装飾・サンドブラスト講座

平成24年10月13日(土)・14日(日)
会場：創作スタジオ他
講師：安田れい子氏(ガラス作家)



細かい砂を勢よく吹きつけてガラスなどの表面を研削するサンドブラスト。段彫りなどの技法も加え、ペーパーウェイトなどにすりガラスの風合いの装飾を施しました。

ミュージアム・コンサート ジョン・グルール・ボン・ミュージシャン

平成24年11月4日(日)
会場：階段ホール
演奏：名倉亜矢子氏、辻康介氏、
上田美佐子氏、近藤治夫氏、
立岩潤三氏



バグパイプ、ハーディガーディ、フィドルなど、中世の楽器と歌、語りで芝居仕立ての楽しいコンサートでした。

バーン=ジョーンズ展講演会 バーン=ジョーンズとウィリアム・モリス=イギリス19世紀末の美学

平成24年11月23日(金・祝)
会場：多目的スタジオ
講師：河村錠一郎氏(一橋大学名誉教授)



バーン=ジョーンズが生きた時代の、主にイギリスの芸術思潮について、最新情報となる映像なども含めながらお話をいただきました。

第5回風土記の空

平成24年11月13日(火)～12月16日(日)
会場：展示ロビー



作品を制作した中学生たちが展示をしました。ワイヤーや額と格闘しながら、「見せる」ってたいへんだなー、と思ってくれたことでしょうか。意外に経験できない貴重な機会になりました。

参加校/日和田中学校、片平中学校、守山中学校、郡山第四中学校、郡山第一中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校(計7校)

対談「『ぴあ』表紙絵の誕生」

平成25年1月26日(土)
会場：多目的スタジオ
講師：及川正通氏(イラストレーター)、
矢内 廣氏(ぴあ株式会社代表取締役社長)



この日が初日の「現代の浮世絵師 及川正通原画展」に合わせて、午前中には及川氏のギャラリートークがあり、ぴあの社員でも聞いたことがない表紙絵の裏話でいっぴいの対談になりました。

トーク・ライブ

平成25年2月11日(月・祝)
会場：多目的スタジオ
講師：佐藤三郎氏(けるぶ農場会長)、
及川正通氏(イラストレーター)



佐藤氏を中心になって1975年に郡山市総合体育館で開催された「空飛ぶカーニバル」。そのポスターを制作し、ミュージシャンとしても参加した及川氏。実に38年ぶりの再会に、会場はパーティーのような雰囲気に包まれました。

ワークショップ 銅版画(多色刷り)講座

平成25年2月23日(土)、24日(日)、
3月2日(土)、3日(日)
会場：創作スタジオ
講師：日向野桂子氏(銅版画家)



繊細な線を表現できるエッチングと色面を表現できるアクアチントを併用して、本格的な銅版画制作にじっくりと取り組みました。

ワークショップ 紙の造形講座 絵のない絵本をつくる

平成25年3月16日(土)、17日(日)
会場：創作スタジオ
講師：斎藤真紀氏(造形作家)



カラーペーパーを切ったり穴をあけたりして、絵も文字もない、造形的なアイデアに満ちた絵本を作りました。

第12回風土記の丘の美術展
郡山市内の小学生による作品展

7月23日(火)～8月25日(日)
主催/郡山市立美術館

郡山市小学校造形教育研究会
場所/展示ロビー

市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示します。展覧会とあわせてお楽しみください。

第1期 7月23日(火)～7月28日(日)
片平、喜久田、熱海、熱海石筵分校、安子島、上伊豆島、湖南、富田西、桑野、小山村

第2期 7月30日(火)～8月4日(日)
安積第一、安積第二、安積第三、永盛、守山、御代田、高瀬、谷田川、田母神、栃山神、橘、小原田、桜

第3期 8月6日(火)～11日(日)
日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、行徳、富田、富田東、高野、鬼生田、三町目、大田、根木屋

第4期 8月13日(火)～18日(日)
柴宮、穂積、三和、多田野、多田野堀口分校、河内、開成、薫、大槻、大成、朝日が丘、ザベリ才学園

第5期 8月20日(火)～25日(日)
金透、芳山、芳賀、桃見台、赤木、白岩、東芳、大島、緑ヶ丘第一、宮城、海老根、御鶴、御館下枝分校



昨年の「第11回風土記の丘の美術展」会場

「夏休み公開ワークショップ」
風土記の丘発 図工&美術の時間
へようこそ！ パートⅦ

小中学校の先生と一緒に、図工と美術の授業を体験。いろいろなテーマのコーナーでお待ちしています。
日時/8月3日(土)

午前の部 11時～正午
午後の部 2時～3時
講師/郡山市内の小中学校の先生
場所/多目的スタジオなど
※各コーナーとも先着15名程度
予約はいりません。



昨年の「風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！ パートⅦ」会場

平成25年度 <アート・テーク>

昨年からはまりました<アート・テーク>。文字通り「アートを捉える」、さらに「アートから捉える」ことを目的とした年6回の文化講座です。

- 第1回「型—狂言の身体・演出—」
特別講師：野村萬斎氏(狂言師)
日時：5月29日(水) 午後2時30分～
会場：多目的スタジオ
- 第2回「モノをみる力—若冲登場—」
特別講師：ジョー・プライス氏(絵画コレクター)
エツコ・プライス氏
内山淳一氏(仙台市博物館副館長)
日時：7月25日(木) 午後2時～
会場：多目的スタジオ
- 第3回「日本人の<もの>観」
講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：9月21日(土) 午後2時～
会場：講義室

- 第4回「知のかたち—大学博物館編①—」
講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：11月16日(土) 午後2時～
会場：講義室
- 第5回「知のかたち—大学博物館編②—」
講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：平成26年1月18日(土) 午後2時～
会場：講義室
- 第6回「ものが語る、ものを語る」
講師：未定
日時：平成26年3月
会場：多目的スタジオ

※各回とも参加は無料ですが、回によっては事前の参加申込が必要です。詳細は美術館までお問い合わせください。

TOPICS

美術館のカフェ juju 130 cafe

(ジュジュ イチサンマル カフェ)

抹茶ファンにはたまらない、5月からの新メニューをご紹介します！

黒蜜抹茶のパンケーキと抹茶カプチーノ。パンケーキは、ナイフとフォークで食べるあんみつみたい。ほどよい甘さの黒蜜がお口いっぱいひろがります。抹茶カプチーノは、黒蜜がかけてあるフォームミルク、エスプレッソ、そして抹茶ミルクが層になっていて、見た目も楽しい！もったいないけど、ゆっくりかき混ぜて召し上がれ！

営業時間 11:00-17:00 電話 024-942-2250



常設展示

9月1日(日)

- 展示室1 イギリスの肖像画
- 展示室2 季節の移ろい—夏から秋へ
- 展示室3 戦後の日本美術
- 展示室4 戦後の日本版画/小特集 佐藤清四郎のスケッチ

9月4日(水)～12月1日(日)

- 展示室1 イギリス美術名作選
- 展示室2 洋画事始め
- 展示室3 美術と社会
- 展示室4 イギリスの版画/クリストファー・ドレッサーと日本

※9月4日(水)は、展示替えのため常設展示室はご覧いただけません。